



北斗句会

令和六年二月定例会（七日）

五十音順 特選 石田きよし選

特 ビル谷間ふんばり貌の春の月 大崎石州

仮の家の槌音高き能登の春 太田黒幸風

盆梅や蕾の二三笑み始む 大森康正

特 春待つや句会の友のまとも逝く 川崎きこう

病床の寝顔に笑窪春近し 竹内雲泉

色めきて梅の蕾の日一日 田中資凡

打ち込みの強き友の書淑気満つ 長池豆陽

特 鶏鳴の声もあかるき水仙郷 藤田紀潮



歩くかも知れぬ大根引つこ抜く 石田きよし